～企業コミュニケーションの価値を多面的に高める「場」～

日本には企業博物館が全国に1000はあるとみられています。企業博物館を立ち上げ自ら館長を務めた粟津重光さんが、全国170か所の企業博物館の訪問で見出したコミュニケーション価値を、あますところなく伝えます。

ロマンスカーミュージアム

神奈川県海老名市めぐみ町１－３
https://www.odakyu.jp/romancecarmuseum/
利用時間：午前 10 時～ 17 時（最終入館 16 時 30 分）。
毎週火曜日休館。
入館料：大人（中学生以上）　900 円
　　子ども（小学生）　400 円
　　幼児（3 歳以上）　100 円

【開設のコンセプト】

鉄道博物館は国内にも数多く存在する。それぞれ展示に工夫を凝らし独自の展開をおこなっているが、ロマンスカーミュージアムはそれまでの鉄道博物館とは全く異なったコンセプトに基づいて運営されている。コンセプトはエデュテインメント（entertainment ＋ education）。

【館内】

「ヒストリーシアター」

小田急線開業当時に運行を開始した車両である「モハ 1」が停車するプラットフォームで、小田急電鉄とロマンスカーの軌跡をたどるムービーを鑑賞。

懐かしい沿線の街並みや、歴代ロマンスカーの走行時の記録など、貴重な写真と映像が楽しめる。

「ロマンスカーギャラリー」

歴代ロマンスカーが勢ぞろいする常設展示のギャラリー。既に引退した 5 車種のロマンスカーを間近に見ることができる。ロマンスカーの代名詞ともなっている先頭車の最前列までを客席とする前面展望席は 1963（昭和 38）年から採用された。「安全」「経済」「デラックス」「魅力」「快適」「高速」という 6 項目を設計スローガンとして開発された。そのため、運転手は乗客が乗車する前に梯子をかけて運転席に座る。乗客が全員おりた後、また梯子を使用して降りてくる。

「ジオラマパーク」

2 階に上がると、巨大なジオラマが目に入ってくる。

新宿から箱根、小田原という小田急線の沿線風景が朝から夜までの時間の経過のなかで、実にダイナミックな展開が再現されている。

都市部から丹沢、多摩の山々、江の島と海を目指す多様で魅力的な沿線風景の中を、9 車種のロマンスカーと 4 車種の通勤車両が駆け抜ける。引退済みの車両から現役車両まで、小田急の歴代車両揃い踏み。現実にはあり得ない光景が再現される。

170 か所以上の企業博物館を訪問している筆者にとっても間違いなく最大規模のジオラマ展示であり、内容も実に充実していた。

スタッフに聴くと来館者の中にはこのジオラマパークで半日見続けて過ごす人もいるということだった。

「キッズロマンスカーパーク」

2 階のキッズコーナーはこの施設のコンセプト「エデュテインメント」の具現化というべきか、とても充実している。「ロマンスカーアスレチック」「こうさくしつ」「ロマンスカーシミュレーター」「インタラクティブアート」などが揃っている。このエリアは、年齢や性別の異なるさまざまな子どもたちが、自主的に触れ、発見・経験・想像して、“ワクワク”を感じ、楽しめる要素がちりばめられている。（いずれも別料金が発生）

「ロマンスカーアスレチック」では、ロマンスカーの特徴である2階部分運転席と展望席を模した遊び場が備わっている。また『のぼってあそぼう』のゾーンではロマンスカー形のフィールドアスレチックが楽しめる。ただしこのコーナーは子供単独では参加できない。付き添いの大人の立ち合いが必要だ。

「こうさくしつ」では、「ロマンスカー」のペーパークラフトをつくり、紙でできた小さなまちのなかを走らせることができる。自身で作ったペーパークラフトは持ち帰ることができ、次回訪問時に持参し、再度楽しむことも可能だ。

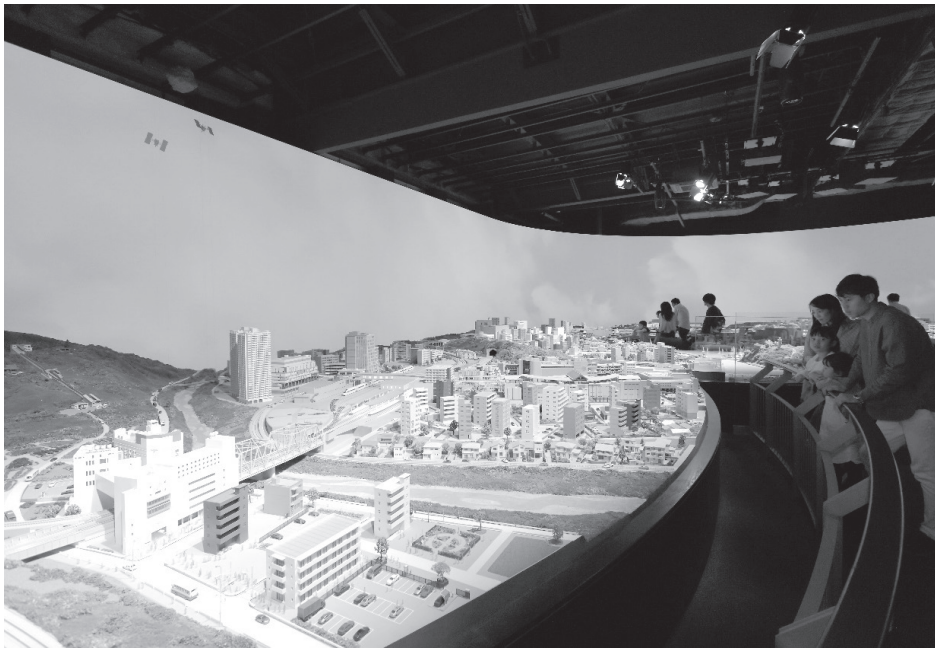
「ロマンスカーシミュレーター」では“LSE(7000形)”という既に引退した実際の車両の運転台を活用して作られた運転のシミュレーションが10分間程度体験できる。リアルな操作感と、2階の運転席からの風景が楽しめる。

インタラクティブアートのコーナーは「電車とつくるまち」というタイトル通り、小田急電鉄によるまちづくりを遊びながらまなべる。壁に手をかざすと、線路が通り、電車が走りたくさんのまちが生まれ、参加者にとってはワクワクする瞬間が生まれるのだ。

【粟津の視点＝見どころ】

全国に数多く存在する鉄道博物館。JR、私鉄、地下鉄など併せて筆者も10か所程度は訪れていると思う。これらは一様に楽しく、鉄道に夢を感じる来館者が多いのだろうと考える。「ロマンスカーミュージアム」はその中でも小田急の代名詞ともいえる“ロマンス”を感じてほしいと設計された。

しかし、開設時のコンセプトは冒頭に述べたように“エデュテインメント”とし、教育の要素も加味した。もちろん楽しい部分は十分に表現されている。企業博物館にフィールドアスレチックのコーナーが併設されているのは初見であった。楽しみながら学べる企業博物館なのである。そのためか親子そろっての来観者が非常に多い。施設のロケーションは新宿駅から特急に乗っても40分かかる海老名である。しかし、最近の来館者は月間1万人を越えるそうだ。この施設に人気が集まっている証左である。後発であっても、他の同種の企業博物館とは一線を画した取り組みがいかに重要であるかという事を、見学を通して学べた。



ジオラマパークは圧巻の迫力。（画像はロマンスカーミュージアム提供）